

**岡山市文化芸術振興ビジョン改訂版(素案)に係る
意見募集(パブリックコメント)の結果について**

1 意見募集の概要

(1) 募集期間 平成28年12月21日(水)から平成29年1月25日(水)まで

(2) 周知方法

- ・「市民のひろばおかやま」1月号に募集記事掲載
- ・市ホームページ
- ・配布・閲覧(文化振興課、情報公開室、各区役所・支所・地域センター、天満屋地下街市民サービスコーナー、各公民館)

(3) 意見募集の結果

提出状況 15名(38件)

2 意見の概要及び本市の考え方

No.	ご意見の概要	本市の考え方
①岡山市文化芸術振興ビジョン全般に関するもの		
1	文化芸術は、誰かの指示、指導で創られるものではなく、その土地、そこに生きる人々に根付き育まれていくものである。	ご意見の主旨は、文化振興を推進するうえで重要な視点と考えており、本ビジョンの「基本的な考え方」の中で「市民が主役という理念のもと」で表記させていただいています。
2	オリエント美術館や岡山シティミュージアム、埋蔵文化財センターへの位置づけや言及が欲しい。	岡山シティミュージアムとオリエント美術館についてはP12の「テーマ1【したしむ】」の中の「(1)市民の鑑賞機会の確保・促進」の魅力的な展示や講座などを行う文化施設に含まれており、名称は主な事業に記載しています。 岡山市埋蔵文化財センターは、テーマ4【つなぐ】の主な事業に追記します。
3	P6「カ<各文化事業での市民参加>」の項で、市民の童話賞や市民の文芸等への言及があるとよい。	P6の現状と課題の記載ではいくつかの事業を例示として挙げております。「市民の童話賞」や「市民の文芸」については、P13の「テーマ1【したしむ】」「(2)市民参加の促進」での作品募集として、「主な事業」の項に記載し、引き続き取り組んでまいります。
4	P8の「(3)歴史・文化による都市の魅力向上」の項で、住み続けたいくなるまちにしていくために、歴史・文化による都市の向上が大切であることが暗黙の前提として明記されていない。	歴史・文化による都市の魅力向上の重要性について、より分かりやすい表記となるよう修正します。
5	「芸術の担い手」としての期待とESDや趣味・生きがいとしての区別が曖昧ではないか。	文化芸術の担い手はプロの芸術家だけでなく、鑑賞する人も含めて幅広くとらえていますので、ESDや趣味・生きがいとしての文化活動も、文化芸術の担い手に含まれると考えております。
②テーマ1【したしむ】について		
6	市民に身近で気軽に文化芸術に触れる場として、図書館を入れてほしい。	図書館は生涯学習の拠点として、市民の主体的な学習を支援しており、P12の「テーマ1【したしむ】」の「(1)市民の鑑賞機会の確保・促進」の中の「地域にある身近な施設」に含まれています。
7	主な事業の「講座・クラブ・発表会、ワークショップなどの実施」機関に図書館も挙げてほしい。	図書館でも、講座など行なわれておりますので、テーマ1【したしむ】の主な事業の中に追記します。

No.	ご意見の概要	本市の考え方
8	郷土作家への視点というものをビジョンに織り込み、市民に鑑賞の機会を広げていく施策や施設が必要ではないか。	郷土作家への視点についても、テーマ1「(1)市民の鑑賞機会の確保・促進」の文化施設での展示とともに、テーマ4「つなぐ」にも関連する施策として取り組んでまいります。ご意見は、参考とさせていただきます。
9	公民館における文化芸術活動を「市民が気軽に文化芸術活動に親しめる」最も主要なものとして位置づけ、施策の方向性の内容を充実してほしい。	P12の「(1)市民の鑑賞機会の確保・促進」の中の「地域にある身近な施設」に公民館は含まれています。
10	効果指標に公民館のクラブ講座参加者数又は文化祭の参加者数等の「実数」の指標を追加すべき。	公民館での活動参加者数もテーマ1【したしむ】の効果指標である「過去一年間に文化芸術イベントの鑑賞・参加をした市民の割合」へ反映されるものです。
11	おかやま国際音楽祭の内容を見直し、ホールとストリートを舞台としたクラシック音楽あるいはジャズ等ジャンルを整理したイベントの開催を提案する。	おかやま国際音楽祭は、ホールだけでなく街角や公園など屋外でも多彩な音楽文化に気軽に親しむ機会を提供する事業として開催しております。ご提案につきましては、今後の参考とさせていただきます。
12	芸術文化を日々親しみ、誇りに思える手法としてストリートアートを提案する。小さなアートでローコストであり、探す楽しさによる回遊性も期待されるため。	個別事業についてのご提案として、今後の参考とさせていただきます。
③テーマ2【はぐくむ】について		
13	ジャンルを越えて新たな作品が創出されることを目指し交流を図るとは具体的に何時の時期か、発信する手段など、具体的にしてほしい。	本ビジョンは平成33年度までの取り組み方針を示しております。岡山市芸術祭などの文化事業を通じた芸術文化団体の交流促進やスポーツ・文化・生涯学習ポータルサイト「LIFEおかやま」の活用による情報発信の支援を想定していますが、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
14	様々な芸術を表現するにあたり、照明・音響・舞台等の技術が重要なポジションであることがビジョンに反映されていない。	芸術を支える様々な技術者の重要性については認識しており、P14の「テーマ2【はぐくむ】」の「(1)担い手の育成」及び、P21の「文化芸術を担う人材の循環」の図に含めております。
15	幼少期の文化的体験は親の趣向で決まると思う。文化的体験に関心がない家庭の子どもが文化的体験に関心をもつ家庭を築くには相当なハードルがありそうに感じる。	子ども・青少年への文化体験機会の提供は重要と考えており、学校での鑑賞や街角などのイベントを通じて鑑賞機会等を増やしていきたいと考えています。ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。
16	効果指標が子どもだけになっているので、大人でも何か指標がないか。	本ビジョンでは、大人も含めた【はぐくむ】施策を行ってまいります。効果指標については、子ども・青少年への取り組みで把握してまいります。
17	P14【「方向性」】の項は、「企画・制作する人」、表現者としてスタッフとして「参加する人」、「支援する人」という記述が適切ではないか。	ご意見をふまえ、表現を一部修正し、「企画・制作する人」や「表現する人」、「参加する人」、「支援する人」としました。
18	企画力・制作力を持った人材の育成が求められる。岡山で事例がないのであれば、例えば他県の先進地へ派遣し育成する事業が必要ではないか。	企画・制作における人材の育成は重要と考えており、ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

No.	ご意見の概要	本市の考え方
19	人材が連携する機関としてNPO法人等が考えられる。NPO法人等で「企画・制作」している方々がレベルアップする環境整備が望まれる。	文化の担い手が連携する仕組みや、「企画・制作」する人材のレベルアップに向けた取組みが必要であり、ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。
④テーマ3【ささえる】について		
20	文化の担い手のさらなる活躍が期待されるのであれば、イベントには東京や関西などからではなく、地元の豊富な経験者たちの推薦により、岡山中で活躍している魅力ある人材を公共の場へ紹介し、支援、宣伝することで芸術家が観てもらえる場ができる。芸術の場にいる者の意見や声に敏感になってほしい。	文化の担い手が育っていくには、地元の人材の活躍と普段接することの少ない外部からの刺激の両面が必要と考えています。ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。
21	市民の文化活動を支える市有施設の例示に図書館を入れてほしい。	市民の文化活動を支える市有施設として、ご意見をふまえ、図書館を追記します。
22	練習場所・アトリエ等の創作や実験ができる場所の拡充が求められており、ビジョンに具体的記述がほしかった。	P16の「テーマ3【ささえる】」の「(1)活動環境の向上」の項に記載しております。今後、新しい文化芸術施設の創造エリアなどの整備において、ご意見は参考とさせていただきます。
23	効果指標が、主にプロが使う1700席以上のホールの稼働率ということに違和感がある。例えば西川アイプラザホールの稼働率など他の指標がないか。	テーマ3【ささえる】に記載しているように、本市の文化活動を支えている施設は、岡山シンフォニーホール等の他にも多数ありますので、主なものとして、効果指標は、「岡山シンフォニーホール」と「岡山市民会館」としています。
⑤テーマ4【つなぐ】について		
24	私たちの足元にある未来の文化資産(例えば桃太郎大通りにある蛭田二郎氏の作品群等)について、多くの市民にその優れたところの認識・再認識を促し、大切に、つないでいく風土・土壌を醸成してほしい。	地域の文化資源を学び親しむことは重要と考えており、P18の「テーマ4【つなぐ】」で、地域の文化資源の再認識や次の世代への継承について取り組んでまいります。ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。
25	合併されてきた周辺地域や町における歴史や文化への取組が、岡山市という包括的な捉え方の中に薄らいではないか。	市内各地の地域の文化資源を市民が共有し、地域の魅力として発信が必要であり、テーマ4【つなぐ】の施策として記載しております。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
⑥テーマ5【つくる】について		
26	新しい文化芸術施設の整備を進めている中で、市民が参加、受講できる講座の開設にあたっては、講座を開きたい指導者はたくさんいるので講座開講の手段を明確に、推薦や募集により、開講してほしい。	新しい文化芸術施設は創造活動の拠点として、様々な活動が行われる施設として整備してまいります。どのような事業を行うか等は、今後検討することになりますので、ご意見は参考とさせていただきます。
27	岡山にしかないようなもの(文化)、ユニークでオリジナルな文化・創造物を発見、発掘、創造すること、展開・発展してゆくことなどを戦略的にサポートし、サブカル的なものも含めての振興策を進め、岡山市が国際的な「文化観光都市」になってゆくようなビジョンが持てたらよいと思う。	岡山独自の歴史や文化など地域資源を発掘し、創造・発信につなげていくことは重要と考えております。ご意見は、今後の事業の参考とさせていただきます。
28	岡山フィルハーモニック管弦楽団というプロ集団を音楽祭で生かされていない。オーケストラは文化的「社会インフラ」であるという発想が岡山にも必要。	岡山フィルハーモニック管弦楽団が、市民に親しまれる楽団となるには、多くの人に演奏を聴いていただくことが重要と考えております。ご意見は今後の事業の参考とさせていただきます。

No.	ご意見の概要	本市の考え方
29	岡山フィルハーモニック管弦楽団を岡山の都市魅力向上・都市ブランド向上と音楽文化の担い手育成・人材の交流拠点としての地位確立、そして岡フィルのプロオーケストラとしての実力向上への体制整備のため、日本オーケストラ連盟への加盟を目標とすることを提案する。	岡山フィルハーモニック管弦楽団が、都市ブランドの確立につながるための具体的なご提案で、今後の参考にさせていただきます。
30	P20「(1)地域で文化芸術を創る」の項で、岡山フィルハーモニック管弦楽団だけでなく、館としての岡山シンフォニーホールや財団としての岡山シンフォニーホール、岡山市スポーツ・文化振興財団などの名前があってもよいのではないかと。	「地域で文化芸術を創る」活動は、様々な施設や主体により行われることとなります。岡山シンフォニーホール等の施設については、P16のテーマ3【ささえる】に記載しており、外郭団体についてはP22の推進体制に記載しております。
31	「つくる」について、新しい文化芸術施設に限らない他の効果指標がないか。	「つくる」活動については、幅広い創造活動を想定しており、新しい文化芸術施設の開館に向けた事業を実施することで、「つくる」活動をさらに充実させていくことを目指し、この効果指標を設定しております。
32	美術館・博物館同士の連携にプラスして、美術と音楽のコラボレーション、公共ホールと美術館が連携という視点の施策展開を考えてはどうか。例えば、岡山フィルハーモニック管弦楽団のコンサートで「魔笛」や「シェエラザード」などの曲とオリエント美術館の展示をリンクさせることで、岡山の持つ文化シーズを遺憾なく発揮した事業が展開できる。	連携事業について、美術館・博物館とホール等を含めた幅広い視点で取り組んでいくことは、本市の魅力発信にも重要であり、ご提案は、今後の事業の参考とさせていただきます。
⑦推進体制について		
33	推進体制の図表に、「岡山県・国等」と「外郭団体」の連携や「岡山県・国等」においては「外郭団体」に対する支援・環境整備に努めていくことの表記が必要である。	外郭団体は県からの指導・支援、国等の助成金活用に加え、事業への誘客には観光関連の団体とも連携が必要であり、図に追記します。
34	各部署の連携が取れていないように見受けられる。	P22の「V 推進体制・進行管理」の中の「1 本市の関係課」に記載している部署を中心に、本ビジョンの推進にあたっては連携を密にしながら取り組んでまいります。
⑧その他		
35	クリエイティブな都市になれるよう、さまざまな力を結集して取り組んでほしい。	本ビジョンの推進にあたっては、市民の方々や様々な人や団体の力が必要となります。P23に示す推進体制で、今後の事業に取り組んでまいります。
36	5つのテーマについては、よく考えられたテーマだが実施にあたっては、芸術に接している人たちの意見もきくべきではないか。	本ビジョンの推進にあたっては、P23に示す推進体制で示しておりますように、様々な人や団体の力が必要となりますので、ご意見を参考に、今後の事業に取り組んでまいります。
37	「新しい文化芸術施設」が、市民にとってより良い施設となるよう、改善や工夫を望む。	新しい文化芸術施設は、多くの市民が利用し、創造活動を行う施設として整備してまいります。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。
38	「岡山芸術交流」を開催するのであれば、普段利用されていないが魅力ある場所を見つけ出して展示場所として活用するような工夫をしてほしい。そのことにより地道な市民の文化活動への支障もなく、「共存」や「交流」が生まれ、地域の魅力の再発見につながり市や県にとってより大きな可能性が発生するのではないかと。	今回開催した「岡山芸術交流2016」においては、前川國男氏の設計による特色ある建物にも焦点をあてた会場設定とし、その価値を再認識できたものと考えており、次回開催の検討にあたっては、まちの魅力を引き出せるような会場の検討を行ってまいりたいと考えており、ご意見は参考とさせていただきます。